

#11. 学術論文を書く（パート3）

ジェイナ・トキエ・タナカ

概要を仕上げる

小論文の主張とトピックセンテンスを備えた概要が決まったところで、次は論題の証拠を提供してくれるデータ類と実例を概要に加えていく。すべての証拠は信頼できる情報源からのものでなければならない。正式な論文では、各情報に脚注を付けるが、これは小論文の「形式」あるいは「組み立て」を学ぶ練習なので、すべての情報源は小論文の末尾に一覧化すればよい。

小論文主部の各パラグラフには次のように大文字で記号を付ける。

A. 合衆国内の自治体は多種多様な法律を持っているために、個人による銃保有を統制することがほとんどできなくなってしまった。

1. 様々な組織が、銃規制法の厳しさにより米国の各州を評定した。
 - a. 『銃と銃弾』アウトドア・スポーツマン・グループ発行のオンライン雑誌によると
 - 1) 銃所有の最も容易な州：アリゾナ、ヴァーモント、アラスカ、ユタ、ケンタッキー
 - 2) 銃所有の最も厳しい州：ニューヨーク、ニュージャージー、マサチューセッツ、ハワイ、カリフォルニア
 - b. 銃による暴力を阻止するための法律センターによると
 - 1) 最も厳しい規制法を持つ州：カリフォルニア、コネチカット、ニュージャージー、メリーランド、マサチューセッツ
 - 2) 最も緩い規制法を持つ州：カンザス、ミシシッピ、ワイオミング、アリゾナ、アラスカ
2. 差が著しい、アリゾナ州法 vs カリフォルニア州法
 - a. 「覆いなしでの携行」とは、人が銃を誰からでも見えるところに身に付けることができることをいう。
 - 1) アリゾナ州ではそれが可能である。
 - 2) カリフォルニア州では禁止されている。
 - b. 対人殺傷用銃器、セミオートマチック小火器は、引き金が引かれるたびに弾丸（実包）は発射される。弾倉（実包の入った箱）が武器に充填される。武器やそのサイズにより5~30の実包が入る。
 - 1) アリゾナ州では、こうした武器を購入し所有することができる。

2) カリフォルニア州では、これらの販売と所有が禁じられている。

3. 銃規制法と死亡率

a. 『アトランティック』誌の記事によれば、銃規制法の厳しさが銃による死亡率の低さに照応している。数字は2013年のもの

1) 銃関連の死亡率が最も低い州：ハワイ、メイン、ニューヨーク、コネチカット、ロードアイランド、ニュージャージー

a) ハワイ州—10万人中2.5人

2) 銃関連の死亡率が最も高い州：アーカンソー、ルイジアナ、ミシシッピ、アラバマ、アリゾナ

a) アリゾナ州—10万人中19.8人

4. 合衆国の州は（アラスカとハワイを除き）互いに隣接しているために、当然ながら止められることなく州境を跨いで銃を持ち運ぶことができる。しかし、厳しい銃規制法がある州ではその法律が多く、多くの死を防ぐのに役立っているらしい。

主部の第2パラグラフは合衆国の銃の実数についてである。

B. 合衆国の個人が所有する銃の数は、他の先進国のものと比較するとほとんど信じがたい。

1. 銃の実数の数は銃の販売方法が原因で議論される。

a. ほとんどの情報源は全米で約3億丁の小火器があるとしている。

b. 『ワシントンポスト』紙は様々な購入手段を考慮して3億5700万丁と高めの見積りをしている。これは3億1700万のアメリカの総人口を上回るものである。

2. 合衆国の1人当たりの銃所有数は、統計リストで合衆国に次ぐイエメンの2倍である。このリストで次に続くのは、スイス（各男性市民は兵役に就く義務があり銃を保持できる）、フィンランド、セルビア、キプロス、サウジアラビア、イラクである。

3. 3世帯のうち1世帯が銃を所有し、この数字は小さくなりつつあるにもかかわらず銃の数は増加。ナショナル・パブリック・ラジオによれば、各世帯の所有数が増えているため

a. 平均は小火器8丁である。

b. 田舎の州ほど銃所有が多く、都会の州ほど少ない

1) デルウェア州とロードアイランド州では全世帯中の6%

2) アーカンソー州、ウェストバージニア州、ワイオミング州では50%

4. 製造されている銃の数は上昇中

a. 銃製造者は2013年では1090万丁を製造。これは2009年の2倍の数字

主部の最終パラグラフは、この銃の宝庫がもたらす恐ろしい結果について議論することになる。

(つづく)